

### 1 単元の目標

(1)ベースボール型ゲームの行い方を知るとともに、打つ、蹴る、捕る、投げるなどの ボール操作と得点をとったり防いだりする働きによって、優しいゲームをすることがで きるようにする。  
 (2)ベースボール型ゲームの規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選ん だりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。  
 (3)ベースボール型ゲームに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動したり、 勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりするこ とができるようにする。

### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①易しいベースボール型ゲームの行い方について言ったり、書いたりしている。 ②ボールを打ったり蹴ったりする攻め方や捕ったり 投げたりする守りなどの 基本的なボール操作がで きる。 ③ボールの飛球方向に移動したり、全力で走塁したりするなどのボールを持たないときの動きがで きる。	①誰もが楽しくゲームに参加できるように、プレイヤーの人数、コート of 広さ、プレイ上の 緩和や制限、得点の仕 方などの規則を選ん でいる。 ②ベースボール型ゲームに応じた簡単な作戦を選んでいる。 ③攻めや守りの際の工夫について考えたことを友達に伝えている。	①易しいベースボール型ゲームに進んで取り組もうとしている。 ②ゲームの規則を守り、誰とでも仲良く運動しようとしている。 ③ゲームで使用する用具などの準備や片付けを、友だちと一緒にしようとしている。 ④ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑤ゲームや練習の際に、友だちの考えを認め陽としている。 ⑥ゲームや練習の際に、周囲を見て場や用具の安全を確かめている。

### 3 単元指導計画

	学習内容	ねらい
第1時	オリエンテーション	学習の見通しをもつ
第2時	ボールに慣れる運動・基礎感覚づくり運動	運動遊びから投げる・捕る・打つになれる
第3時	基礎感覚づくり運動・おもいやり5	チームを意識した投げる・捕る・打つをやってみる
第4時	基礎感覚づくり運動・おもいやり5	チームを意識した投げる・捕る・打つ・走るをやってみる
第5時	リーグ戦に向けての練習ゲーム	自分のチームの特徴を生かした作戦を考えよう
第6時	リーグ戦に向けての練習ゲーム	場面に応じたプレーを考えて、作戦を立てよう
第7時	リーグ戦を楽しむ	学習の成果を発揮してゲームを楽しむ

第8時	リーグ戦を楽しむ	学習の成果を発揮してゲームを楽しむ
-----	----------	-------------------

#### 4 準備運動(ボール慣れの運動)

- ・壁当て、壁打ち
- ・自分でボールを投げてキャッチする。
- ・ペアを作ってボール投げ・キャッチ
- ・ボールを打つ練習

#### 5 基礎感覚作り(メインゲームを楽しむための動きの習得)

- ①キャッチボールの練習(対面でいろんなボールを投げる・捕る)
- ②ボールを打つ人1人, ボールを受ける人2人(野球のノック)の3人で役割を変えながら
- ③10mを全力で走る練習
- ④ボールの正面に入って捕る練習(手のひらの向きを指導)
- ⑤捕ったボールを角度を変えて投げる練習
- ⑥反復横跳びの練習(スポーツテストの種目が役立つことを知らせる)

#### 6 規則

- ・3アウトで攻守チェンジではなく、チーム全員打者を経験したら交換など。
- ・ランナーは1人までにして、アウトになるまで塁を走る。1塁(1点)2塁(2点)3塁(3点)ホームベース(4点)にする。
- ・守備は、ボールをキャッチして決められた場所(1塁orホームベースなど)にボールを投げるとアウト。捕る側は、捕っても、手に当たっても打者をアウトにできる。(配慮が必要な児童は、ボールを捕ったら座るとアウトなども有り)

#### 7 配慮が必要とされる児童の姿、場面、困り感

- ①ルールの確認
  - ・ホワイトボードや動画等を活用して視覚化する(見通しを持たせる)
  - ・フィールドの線の色の工夫(例:ファールゾーンは水色、ノーヒットゾーンは黄色等)
- ②チーム編成
  - ・一人は野球やキャッチボールが得意な子をリーダーにする
  - ・均衡な編成ができるように観察する(見守る)※必要に応じて介入
  - ・5人以上のチームは入れ替え制で行う(1～6までの番号を決めて)
- ③ゲーム中
  - ・ポジティブな声かけで、苦手な子でも楽しんで活動できるように
  - ・特別ルールを設ける
    - 打つのが苦手な児童はノーヒットゾーン内でもOK
    - 3種類ほどの大きさの異なるボールを用意し、バッターの児童に選択させる
  - ・勝敗にこだわる児童には、場合によっては指導者(教師)の介入が必要
    - ゲーム後のきらりタイムを、各グループで行う(1分程度)
    - そのあとに、作戦タイムを設けることで切り替えができる

## 8 運動が苦手な児童への配慮

- ・大きいボールから練習していく。(当たりやすいボール等)
- ・打つことに特化したり、走ることだけに特化して対応する。
- ・ノーヒットゾーンを無くしておこなう。
- ・手が痛い子は手袋をつける。
- ・空振りには再度チャレンジする。(3回までOKとか)